

10月25日(月)

ブヨを濾(こ)す人の告白

聖書朗読 マタイ23:23

目の見えぬ手引きども。ぶよは、こして除くが、らくだは飲み込んでいます。

マタイ23:24

嫌なことでも役に立つことがあります。2020年のステイホームの期間中、私は集中して黙想することができました。自分の説教を吟味することもできました。私は説教に多くの時間を費やしてきましたが、それは神様にとってはそれほど重要ではないと学びました。誠実な信仰と教会出席を結びつける説教をしてきたことを恥じました。神の王座の前に誠実に教会に出席することと、教会の建物に行くことは異なるのだと分かりました。公の礼拝に出席することが、純粋に個人的に礼拝しているとは限らないとも言えます。

イエス様は、私のようなぶよをこす人であるパリサイ人たちとかなり多くの時間を費やしたのだと確信させられました。イエス様は、公正さ、憐れみ、真の誠実な信仰さなどのより重要な律法の霊的なところに焦点を当てていました。表面的なことだけを見て、「ラクダを飲み込む」のはいけません。つまり、ぶよをこす人とは、重箱の隅を突ついて、一番大事なことをおろそかにするような人のことです。

パンデミックが落ち着いてからも一緒に礼拝する喜びを忘れずに持ち続けますように。私たちの考えと心を新たにして、神様にとって最も重要であること心を寄せることができますように。神様の大きい愛を喜ぶことができますように。

讃美歌 333

祈り 父よ。「ブヨをこす人」である私をお赦してください。より霊的に賢い者に、より純粋で誠実な神の家族に私たちを作り変えてください。

イエス様のお名前によって。アーメン。

マーク・R・ガイ

オハイオ州 ウェストキャロルトン

今日のカ

2021年10月25日～10月31日

翻訳 ハンコック・真由美
(コールド・スプリングスキリストの教会)

編集 野口 恵美子

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています。

御茶の水キリストの教会

10月26日(火)

ボーダーレス(境界線をなくす)

聖書朗読 マタイ27:45~55

すると見よ。神殿の幕が上から下まで真っ二つに裂けた。 マタイ27:51

私は塀のない家で育ちました。塀がないのは我が家だけでなく、町のどこにもフェンスも門もなく、あらゆる隣家との隔たりが存在していませんでした。お隣の庭のロープでできた遊具にすんなり歩いていくこともできました。道路を横切れば、門を開けることなく直ぐに友達に会うこともできました。隔たりがない繋がりをお互いに楽しんでいました。

これは、もっと大きい意味で神様が望んでいることです。神様はエデンの園で人間と暮らし始めたとき、神様と私たちは親密で 何の隔たりもなく一緒に歩いてくださっていました。悲しいかな、プライドという塀が高くなってしまい、罪というバリケードが登場し、命の源である創造主との親密な関係を失ってしまいました。しかし、感謝なことに、イエス様はこの全てを変えてくださいました。イエス様の生涯と死と復活によって、私たちと神様と天の父の間の障害物を取り去ってくださいました。これは神殿の天幕が裂けたことで美しく象徴されています。今は、神と私たちを隔てるものはもはや何もないのです。

塀のない暮らしをすることは可能です。あなたをお造りになられあなたの存在を喜んでくださる方との自由な親密さと繋がりを経験するのは可能です。私たちが塀(壁)ではなく架け橋と共に生きるチャンスがあることを感謝いたしましょう。

讃美歌 136

祈り 父よ。私とあなたの間すべての塀や壁を取り除いてくださいます。ありがとうございます。あなたに近づける架け橋を作ってください。感謝します。

塀のない暮らしを今日経験し、表現することができますように。

イエス様のお名前を通してお祈りいたします。アーメン。

クリス・アルトロック

コネチカット州 スタンフォード

10月27日(水)

空っぽの墓

聖書朗読 マタイ28:1~7

彼の墓は悪者どもとともに設けられ、彼は富む者とともに葬られた。

イザヤ 53:9

初めてエルサレムを訪れた時、聖書に出てくる場所を実際に見ることができました。2箇所を特によく覚えています。一つはカルバリーでした。カルバリーは、「どくろ」という意味のゴルゴタと呼ばれていました。自然にできたその丘の傍はどくろのように見えます。2箇所目は、園の墓と呼ばれるゴルゴダの丘から100メートルくらいの場所です。この2つの場所は、イエス様の地上での最後の日を象徴する場所です。

イエス様のお墓で私が最も感銘を受けたのは、木製のドアに書かれていたメッセージです。「彼はここには居ません。彼はよみがえられたのです。」つまり、空っぽの墓は、私たちのよみがえりの望みです。イエス様が語っていたそのとおりであったという確信です。たくさん目撃者が、彼が3日目によみがえったことを証言しています。イエス様は、今日の父の御座のすぐ隣に座して生きておられます。彼の墓は空なのです。

イエス様のよみがえりは、事実として揺るぎなく、懐疑主義者を寄せ付けない圧倒的な力があります。イエス様のよみがえりに逆らう者たちは、長い年月に渡ってその事実を否定しようとしてきましたが、出来ていません。つまり、イエスのよみがえりは、人類が知りえた最大のことであり、そして永遠の希望です。
——ジェイムズ・オーア

讃美歌 II102

祈り 親愛なる父よ。イエス様を私たちの救い主として、私たちの罪の犠牲としてこの世に送るほどに愛してください。ありがとうございます。あの日曜日の朝に墓が空っぽだったこと、今も空のままであるということに感謝いたします。

イエス様のお名前でお祈りいたします。アーメン。

セラーズ・S・クライン・ジュニア

テネシー州 ヘンダーソンビル

10月28日(木)

荒野での応答

聖書朗読 マルコ6:30~44

主は私の羊飼い。私は、乏しいことはありません。

詩篇23:1

誰にでも「荒野の時期」があります。苦悩と不安が襲ってきたときです。「かつての輝ける良き時代」を懐かしみ、将来を不安に思うかもしれません。イスラエルは、奴隷の時代から抜け出し、荒野での困難を経験し、「肉なべのそばに座り、パンを満ち足りるまで食べていた」(出エジプト16:3)日々を懐かしみました。必要を満たしてくださる神様の力を十分に見るといふ荒野でのみ経験できることを有難がることはありませんでした。イエス様は多忙な宣教活動中に、モーセのように、弟子たちに良い羊飼いとしてのご自分を見せるために荒野に連れて行きました。イエス様は十分に溢れるほど私たちの必要を満たしてくださることができましたし、これからもそうです。大勢の群衆が押し寄せ、弟子たちが荒野では群衆に食べ物を与えるための供給源がないと考えていると、イエス様は「主の会衆を、飼うもののない羊の群れのようにしない」(民数記27:16、17、マルコ6:34)ようにご自分が神様から遣わされたと教えて下さいました。

民数記のイスラエル人と同じように、私たちも自分自身の「荒野の時期」に供給源が枯れ果ててしまったら、私たちの良き羊飼いに向かって 本当に必要な物を下さるように信頼して声を上げるのです。

聖歌 472

祈り 親愛なる神様。あなたが私たちの面倒をみて下さること、そして必要なものを備えてくださいますが、私たちはつい他のものに目が行ってしまいます。富める時も貧しき時もこの世は荒野ですが、必ずあなたは見ていてくださいます。そしていつも心配してくださり、必要なものを与えてくださいます。ありがとうございます。

良い羊飼いのお名前を通して祈りをお捧げいたします。アーメン。

リチャード・ウルフ
カンザス州 オラフ

10月29日(金)

人生の向かい風

聖書朗読 マルコ6:45~52

しっかりしなさい。わたした。恐れることはない。 マルコ6:50

人生の中での変化が起こった場合、驚くこともあるし準備が整っていないこともあります。日々変わりゆく天気その良い例です、一年の中で春が一番天気の変化が多い季節です。畑仕事をするお百姓さんたちは、朝のいい天気の時起床します。昼過ぎに何の前触れもなしに天気が崩れることがあります。人生の変化も時折天気のように前触れもなしでやって来ます。

マルコ6章でイエス様の弟子たちは、イエス様が水上を歩いているのを見てそれがイエス様であると分からず、驚き恐ろしくなりました。イエス様をご自分が誰であるかを明かし、舟に乗り込まれると、弟子たちは安心しました。

私たちは、恐れに負けたことが人生において何回くらいあったでしょうか。その時は、イエス様から目を離してはいませんでしたか。時々向かって来る人生の嵐は私たちを驚かせ怖がらせます。私たちは風をコントロールすることはできませんが、嵐の中にいらっしゃるイエス様を認め 信頼することはできます。

私たちが嵐の中にいる時、イエス様はいつも私の人生という舟に共に乗って下さっていることを覚えていて下さい。そして、イエス様だけが嵐を鎮めることのできる方だということを再確認してください。私たちが人生の嵐に出会った時、困難に目を奪われるのではなく、共にいて下さるイエス様だけを見つめて、歩いて行きましょう。イエス様はあなたのどんなことでもご存知で、気にかけて下さり、全てを導いて下さるお方だからです。

讃美歌 II 57

祈り 私たちの主であられ神であられる方よ。毎日あなたを見あげることができまうように助けて下さい。人生にたくさんの変化があってもあなた様が導いてくださるといふ希望を見つめることができますように。共にいてくださることに感謝いたします。

イエス様のお名前によって祈りします。アーメン。

トレント・タナロ
テキサス州 アース

10月30日(土)

分裂のない世界

聖書朗読 マルコ7:24~37

兄弟たち、私はあなたがた。あなたがたに願います。あなたがたの学んだ教えに背いて、分裂とつまずきを引き起こす人たちを警戒しなさい。彼らから遠ざかりなさい。
ローマ16:17

昨年のコロナ禍では、多くの人が誰も経験したことのない経験をしました。始めは小さな問題であったように見えたものが、それが大きな問題へ変化しました。こういう問題は、私たちをより良いものに変えることもできます。分裂から助け合いに変わるものとなり得るのです。

イエス様の時代は、世の中はユダヤ人とギリシャ人とに分裂していました。イエス様はユダヤ人に内なる清さを教え、彼らの偽善を非難しました。ユダヤ人には思い描くイエス像があり、身分の低いと見下した異邦人と関わりを持つことを快く思っていないませんでした。

しかし、今日の箇所はマルコ7章では、イエス様は、異邦人に愛をお示しになられたことが書かれています。ギリシャ人でスロ・フェニキア生まれの女性の娘と同じく異邦人の口のきけない男性の話です。この箇所は、揺るぎない信仰の例として度々使われます。ここでイエス様は、ユダヤ人社会から見放された女性の娘と口のきけない異邦人の男性を癒されました。イエス様にとっては、イエス様の愛はユダヤ人にも異邦人にも注がれていることをお示しになられたのです。私たちはいろいろな場面で偏見や差別をしてしまうことがあります、イエス様はそのようなことは望んでおられないのです。また、分裂をも望んでおられません。私たちは今、常にイエス様が誰にでもイエス様の愛を示されたことを模範として日々生活していきことができますように願います。

讃美歌 II 37

祈り 父なる神様、今困難な中にいます。イエス様の憐れみと愛を全ての人に見せてください。全てのことが全能であるあなた様の手の内にあることを思い出させてください。

イエス様のお名前によって。アーメン。

ラニ・ロピエケスト
テキサス州 サイプレス

10月31日(日)

神様が私を変えてくださる

聖書朗読 マルコ10:17~22

イエスが道に出て行かれると、ひとりの人が走り寄って、御前にひざまずいて尋ねた。「尊い先生。永遠のいのちを自分のものとして受けるためには、何をしたらよいでしょうか。」
マルコ10:17

もしあなたが子どもの頃から教会に行っているなら、「富める青年」をご存じだと思います。彼は多くの富を持ち影響力のある青年でした。彼はユダヤ人の会堂の指導者でもありました。彼は律法をよく知っていましたし、法律を守る大切さも知っていました。

ある日彼はイエス様を見つけて駆け寄りました。ひざまずいて尊敬の念を示しました。質問の答えを聞くのを待っていました。彼は「永遠の命を得るために自分は何をしなければならぬか」と質問していました。あなたは、同じような質問をしたことがありますか。

つまり、富める青年は、永遠の命を得るため、チェックリストを作って自分のやるべきことを明確にしようと考えたのです。現代に生きる私たちは、チェックリストを作り、やり終えた仕事のわきに印をつけて達成感を感じます。しかし、永遠の命——神の御国——へ入るためにはこのようなやり方は通用しません。なぜかというと、神様は、私たちに何かをして頂くことが必要ではないからです。神様は万能なお方なのです。私たちが神様にできることは、神様がして下さったことを「ありがとうございます」と受け入れることだけなのです。富める青年は、自分の能力や力で永遠の命を得ようと思っていたのです。神様の本当の愛を知らなかったからです。

イエス様は、富める青年が自分の能力に寄り頼んで、永遠の命を手に入れようとしていたのをご存知でした。そして、その青年に慈しみの目を向けられました。イエス様は、富める青年に自分より頼むのではなく、神様に寄り頼む人生、変えられた人生を送ってほしかったのです。しかし、青年には受け入れる準備ができていませんでした。私たちが神様に従うことにより、人生は変わります！是非、主により頼む人生を送っていきましょう。

讃美歌 II 173

祈り 神様、どうぞ、今日私の人生をご支配してください。全てお委ねいたします。イエス様のお名前でお祈りします。アーメン。

シェリー・リームス
テキサス州 ラボック